

令和7年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立磯松中学校

校 長 名 立 田 晃

1 研究主題等について

(1) 研究主題

主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成

～「選択する機会」と「学び直しの機会」の設定、「ポジティブ行動支援」を通じて～

(2) 主題設定の理由

本校では、令和6年度は「主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成～「選択する機会」の設定と「ポジティブ行動支援」を通じて～」を研究主題に掲げ、授業改善を進めた。

こうした取組により、課題のある生徒への個別の支援が充実し、生徒全体についても、一人一人の生徒が授業内容を理解できたという達成感を得ることで、学習意欲が向上し、本校が育成を目指す資質・能力、「主体力・協働力・表現力」を高めることができると考え、実践したものである。

その成果と課題は、生徒質問紙調査の結果から、次のように整理している。

成果	➤ 肯定的な回答をした生徒の割合が、「主体力」70.0%から76.5%、「協働力」が84.7%から86.4%、「表現力」が80.5%から84.3%に増加しており、取組の効果が表れている。
課題	➤ 肯定的な回答をした生徒の割合が、「主体力」が76.5%で、「協働力」・「表現力」と比較すると数値がまだ低いので、<u>自分で決めたことに取り組んでいく機会を今後も意図的に設けていく必要がある。</u> ➤ とりわけ、一部の生徒において、難しい問題や自分が苦手なことに立ち向かっていく姿に課題がある。全体的には、昨年度よりは学習意欲は高まり、授業に意欲的に取り組める生徒は増えたが、学習内容が十分に定着していない点も課題である。また人間関係でのトラブルも生起している。<u>教育活動の様々な場面で生徒の自己肯定感と協働性を高めていく必要がある。</u> ➤ 昨年度の習熟度テスト（5教科）や全国学力・学習状況調査（2教科）において、正答率が全国平均を下回っており、<u>学習意欲の向上や学習習慣の定着、学びなおしの機会の設定を企図した授業改善を進める必要がある。</u>

そこで、これらの課題を踏まえ、今年度は、

○ 授業等で生徒が「選択する機会」（学習課題や学習方法等）を意図的につくること

○ テストやICTを活用して、学習内容の理解を把握し、「学び直しの機会」を設定すること

○ 教育活動全体で「ポジティブ行動支援」を行うこと

の三点を、本校ならではの「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進」として取り組む。こうした取組により、生徒一人一人の「授業が分かった」「自分で学習できた」という達成感を涵養し、「さらに学びたい」という学習意欲を高め、テストやICTを活用して学習内容の理解を把握し、学び直しの機会を設定して定着を図り、主体的な学習者の育成を目指す。

(3) 研究仮説

授業等で生徒が「選択する機会」を意図的に設けるとともに、テストや ICT を活用して学習内容の理解を把握し、「学び直しの機会」を設定して定着を図り、教育活動の様々な場面で「ポジティブ行動支援」を行えば、学習意欲の向上と学習習慣の定着が進み、主体性と協働性が高まるのではないかと。

(4) 研究内容

ア ユニバーサルデザインの技法を生かした授業づくり **【継続】**

① 焦点化

- ・授業内容の本質を見極め、授業構成をシンプルにする。
- ・授業の「山場づくり」、発問・ヒントを工夫する。

② 視覚化

- ・生徒の意見や教科等として重要な語句等を中心に板書する。
- ・ICTを日常的に活用し、分かりにくいところを視覚化して提示する。

③ 共有化

- ・ペアやグループによる一次共有、全体による二次共有を行う。
- ・自分の言葉で説明して、考えを他者と共有するような場を充実させる。

イ ユニバーサルデザインを生かした環境づくり **【継続】**

① 時間の構造化

- ・本時の「ねらい」を板書し、授業展開をホワイトボードで示す。

② 刺激量の調整

- ・掲示物や物、音等、授業に関係ない刺激を減らす。

ウ 生徒同士が関わる機会の設定 **【継続】**

① 体育大会など、学年縦割り行事を通じて異学年交流を深める。

② 「つながろうデー」（つながりのためのワークショップ）を通して学年の交流を深める。

エ 生徒が「選択する機会」の設定 **【継続】**

① 授業での「選択する機会」

- ・各教科等で、学習方法や学習内容（情報の集め方、まとめ方、表現の方法、問題の量や難易度等）を選択し、計画を立てて実践する機会を設定する。
- ・視覚優位、聴覚優位、体感覚優位等、生徒の特性に応じた選択肢を提供し、生徒が学びやすい学び方を自己決定するよう働きかける。

オ 授業における「学び直しの機会」の設定 **【新規】**

① 授業における「学び直しの機会」の設定

- ・単元テストや小テスト、「ドリルパーク」のログを活用して、学習内容の理解を把握し、授業における「学び直し」の機会を設定し、特にできなかった既習事項を復習したり、既習事項を活用した問題を解いたりして、学んだことを定着させる。

② 「目標設定」と「振り返り」のサイクルの確立

- ・定期テストにおける「目標設定」と「振り返り」のサイクルを確立し、前回のテスト振り返りをもとに今回の目標を決め、目標に沿って勉強し、目標が達成できたか振り返るというサイクルをつくり、弱点を克服しながら家庭学習に取り組ませる。

カ 「ポジティブ行動支援」と「SEL-8S」の意図的・計画的な実践 **【継続】**

- ① 教育活動の様々な場面で生徒の望ましい行動を引き出し（種をまく）、努力の過程に対して適切な評価を行う。
- ② 年間計画に従って「SEL-8S」のスキルトレーニングを実施するとともに、ポスター掲示により学習した内容を意識する環境をつくる。

(5) 検証の方法及び指標

検証の方法：生徒全員について質問紙調査の結果を取組前後で比較・分析する。

指標：各質問項目において肯定的回答をした生徒の割合が増加取組後に 80%以上

2 検証計画

- (1) 7月と2月に生徒全員を対象とした「学習や授業に関する質問紙調査」を実施
- (2) 8月と2月の校内研修、各教科でのブロック研修において、生徒の姿により協議・検証

3 校内研修計画

- | | |
|--------|---|
| 4月 | 研究推進計画を定め、共通認識を図る。 |
| 5月 | 取組の具体と学習指導案作成について共通認識を図る。 |
| 5月～7月 | 各教科においてブロック研修を実施する。 |
| 6月 | 研究内容に係る研修を実施するとともに、研究の進捗状況を確認する。 |
| 7月 | 生徒対象の「学習や授業に対する質問紙調査」（1回目）を実施し、分析する。 |
| 8月 | 研究内容に係る研修を実施するとともに、研究の進捗状況を確認する。 |
| 8月 | 前期前半の振り返りと、今後の取組について協議する。 |
| 9月～11月 | 各教科においてブロック研修を実施する。 |
| 9月～10月 | 研究内容に係る研修を実施するとともに、研究の進捗状況を確認する。 |
| 2月 | 生徒対象の「学習や授業に対する質問紙調査」（2回目）を実施し、分析する。
併せて、各自の実践を交流し、本年度の成果と課題を整理する。 |
| 3月 | 次年度の研究の方向性を検討する。 |

4 研究公開の予定について

今年度は実施しない。

研究構想図

東広島市立磯松中学校

学校教育目標

確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成

【本校が育成を目指す資質・能力】

- ① 主体性 … 目標を定め、その達成に向けて、ねばり強く取り組む力
- ② 協働性 … 多様な人々と協働し、よりよいものを創造していく力
- ③ 表現力 … 自分の考えを相手に分かりやすく伝える力

研究主題

主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成
～「選択する機会」の設定と「ポジティブ行動支援」を通じて～

主体的な学習者の育成

「授業が分かった」、「自分で学習できた」という達成感の涵養 → 「さらに学びたい」という学習意欲の向上

磯松中ならではの「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進」

継続

ア ユニバーサルデザインの技法を生かした授業づくり

- ① 焦点化 授業構成・山場づくり・発問・ヒントの工夫
- ② 視覚化 板書の工夫、ICT等による画像提示
- ③ 共有化 ペアやグループによる意見の一次共有、全体による二次共有

イ ユニバーサルデザインを生かした環境づくり

- ① 時間の構造化 「ねらい」の板書、授業展開を示すホワイトボード
- ② 刺激量の調整 授業に関係のない掲示物や物、音等の削減

ウ 生徒同士が関わる機会の設定

- ① 体育大会など、学年縦割り行事を通じて異学年交流を深める。
- ② 「つながろうデー」（つながりのためのワークショップ）を通して学年交流を深める。

エ 生徒が「選択する機会」の設定【重点】

- ① 授業で学習方法や学習内容を選択する機会を設定、特性に応じた選択肢を提供

新規

オ 授業における「学び直しの機会」の設定【重点】【新規】

- ① 授業における「学び直しの機会」の設定
- ② 「目標設定」と「振り返り」のサイクルの確立

カ 「ポジティブ行動支援」と「SEL-8S」の意図的・計画的な実践【重点】

- ① 生徒の望ましい行動を引き出し、適切な評価を実施
- ② 「SEL-8S」の対人関係づくりのスキルトレーニングを実施

現状

教科学力・学習意欲・学習習慣の定着に課題がある。人とのつながりをつくるのが苦手な生徒が多い。